

# H22 年度

小樽商科大学ラグビー部 部誌



小樽商科大学ラグビー部

H22 年度

## 「北海道トップチームへの道」

コーチ 田中 剛（平成8年卒）

毎年、ご支援・ご指導を頂いておりますOB・OGの皆さんにまずこの場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、昨シーズンは「一部リーグ2勝」を目標として掲げ、4年生を中心に活動をして参りましたがレギュラーリーグ1勝、入れ替え戦勝利ということで一部残留は果たしたものの、目標の達成はできませんでした。しかし、一昨年よりも対戦校との差は縮んでいると実感できた年でした。4年生の選手、マネージャーをはじめ、すべての選手、マネージャーにチームが成長できたことを感謝致します。ありがとう。

すでに新チームは昨年末から動き出していますが今年は「打倒 北海道大学」という目標を掲げ、日々練習に励んでおります。

この目標は現役の学生のみならず、OB・OGの皆さんも学生時代に北大に勝ちたいという志があったと思いますし、小樽商大ラグビー部は北大に勝つことを前提に現在まで活動してきたことは過去・現在・未来と普遍だと思えます。

今年、この目標を言葉として出したことは厳しい状況に自らを追い込んでいくことだとは思いますが学生とこの目標と一緒に達成する為に1年間、日々、練習に励んでいく次第であります。また、小樽商科大学ラグビー部が再び北海道トップチームとして常勝集団となるべく、スタートの年としていきたいと思っております。

学生にはこの目標を達成する為に明るく、楽しくでも厳しい練習を要求していくこととなりますがぜひ目標達成の為に笠田主将を中心にみんなで助け合い、練習中だけでもラグビーに没頭してくれることを期待します。

秋には目標を達成し、学生には有言実行の達成感を体験してもらいたく、この一年間の学生たちの成長に期待し、秋に良い結果報告ができるよう私も努力して参ります。

OB・OGの皆様には昨年に引き続き、ご支援、ご指導の程、お願い申し上げます。

## 「ラグビーをプレイすること」

顧問 乙政 佐吉

2009年度のインカレ北海道地区大学リーグの結果は以下の通りです。最終的には、入替戦に勝利したことにより、一部に残留することになりました。

対 北海道大学	12-38	×
対 酪農学園大学	17-19	×

対 札幌大学 14-26 ×  
対 道都大学 7-110 ×  
対 北星学園大学 26-19 ○

戦績を眺めると、道都戦を除いて、多くは接戦となっています。私の経験上、接戦を制することは、無上の喜びを感じさせます。強豪との試合であるならば、なおさらです。

反面、接戦で負けた際にはこの上ない悔しさを感じるようになります。それでも、大勝あるいは大敗したときの試合よりも、試合そのものは楽しいように思います。記憶にも残ります。

惜しくも「一部 2 勝」という目標は達成できなかったものの、部員一同はリーグ戦での試合を堪能したのではないかと推測します。相手のある話ですので、結果は常に流動的です。結果は結果として受け止めながらも、一部に残留したこと、および、目標達成に向けて努力したことは高く評価したいと思います。現役部員、特に稲野主将をはじめとする卒業生はお疲れ様でした。

小樽商科大学のラグビー部は体育会である以上、勝つことが求められます。おそらく OB も OG も勝つことを期待します。私もご多分にもれず勝利を期待しています。しかしながら、私個人としては、勝利よりも、まずは現役部員が「ラグビーをプレイすること」を望みます。

「play」を辞書で引くと、最初に出てくる意味は大抵「遊ぶ・楽しむ」です。また、「試合」は日本語では「武術や競技などで勝負を争うこと」を意味しますが、「試合する」を英訳すると、「play a game」や「play a match」になります。「game」はもともと「楽しむのための遊び」を意味します。「match」は、「試合」の他に「競争相手・対等の人」という意味を持ちます。欧米式に考えるならば、ラグビーならずとも、スポーツは本来、「対等の相手とのゲームを楽しむ」ためにあるのでしょう。必ずしも勝ち負けを争うことを第一義にするわけではありません。

ラグビーの楽しみ方はさまざまです。ただ勝てば良いとする場合もあるでしょう。勝ち負けよりもプレイスタイルにこだわることもあるかもしれません。仲間と集ってラグビーが出来れば良いという考え方もあります。

もちろん負けても良いと主張したい訳でも、のんびんだらりと練習をすれば良いと言いたい訳でもありません。勝たなければ、あるいは、苦勞を重ねなければ得られない楽しみもあります。たとえ結果として負けたとしても試合過程が楽しめることもあるでしょう。どのような楽しみを得るかは、何を目標とするかによって異なってきます。

ともかくも、ここで伝えたいことは、結果に左右されず、自分たちが楽しめるラグビーを（ラグビー部に）してくださいということです。

最後に、現役部員は怪我をしないように努めてください。肉弾戦を伴うラグビーに怪我は付き物とはいえ、練習で怪我をしたり、怪我でシーズンを棒に振ったりするのはもったいないように感じます。サポーターやテーピングで予防する、あるいは、できるだけコン

タクトバッグのような器具を使った練習をするといった工夫をしてもらえればと思います。

2010 年度も、チームとしてだけでなく、各々が個人としても大いなる成果を得ることを期待しています。

## ○卒業生のことば○

「今年度を振り返って」 稲野 紋冬

今年の目標は、1 部リーグで 2 勝以上し、上位 4 チームに入ることであった。この目標を掲げ、今年 1 年間はスタートした。

シーズンの前半は、定期戦で酪農大学を破り、道大会では 2 年連続のブロック昇格を果たし、1 部で上位 4 チームに入るという目標も、現実味を帯びていた。

しかし、現実には、そこまで甘くなく、インカレでは、北海道大学、酪農大学、札幌大学、道都大学に敗れ、上位 4 チームに入るという目標は崩れ去ってしまった。特に、酪農大学との試合は、いま思い出してもとても悔しい試合であった。定期戦では勝利していたのにも関わらず、2 点差という悔しい点差に終わってしまった。

そういった中で、悔しさと不安を抱えてのインカレ最終戦をむかえることとなった。相手は北星大学。もう負けは許されなかった。不安はあったものの、いままでの悔しさをすべてこの試合にぶつけた。そして、試合終了のホイッスルが鳴った瞬間、自分の目から涙があふれた。久しぶりに聞く勝利のホイッスルの音に酔いしれた。いままで勝てていなかった分、その喜びは一入であった。

そして一週間後挑んだ入替戦。相手は岩見沢教育大学。私たち 4 年生が成しえなかった目標を後輩に託すため、その舞台を準備するため、負けられない戦いであった。この試合も勝利し、後輩たちに目標を託すことができ、とても安心した。

こうして、私の大学ラグビー人生は終焉を迎えた。正直、この歴史の長い小樽商科大学ラグビー部の主将を務めるのは、はかりしれないほどの責任であり、この 1 年間不安と共に過ごした。しかし、いつも隣にはチームメイトがいてくれ、助けてくれた。そんなチームメイトを与えてくれたラグビーに感謝している。

目標を叶えることは出来なかったが、今年ほど 1 部上位チームを近くに感じた年はなかった。北海道大学には 17 点差、酪農大学には 2 点差、札幌大学には 12 点差と点差は縮まっている。来年こそ、後輩がこの目標を達成してくれると信じている。

最後に、私に主将という役職を任せてくれ、共に勝利へと向かい歩んできたチームメイトをはじめ、私たち現役を支えてきていただいた藤江先生、乙政先生、花輪先生、剛さん、岸さん、高谷さん、諸先輩方、皆様方の支えがなければ、こんなにも充実した 4 年間は過ごせませんでした。この場をお借りして、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

「今年を振り返って」 湯浅 拓也

今年自分が副将、そしてバックスリーダーになり、チームを引っ張る側の人間になったので、本当に苦労した一年だった。チームを引っ張らなければならない立場でありながら、怪我で練習できない期間があったり、試合でいいプレーができなかったりと、なかなかうまくいかないことが多くあった。三年目に助けられることも多く、本当にふがいない四年目だったと感じている。しかし、一部四位は果たせなかったものの、結果として一部に残留できたことは良かったと思うし、最後の年として納得できる結果となった。来年は、チームの力が飛躍すると思うし、自分たちが果たせなかった一部四位以上という目標を果たしてくれることを期待している。

「4年間を振り返って」 栗津 康佑

今シーズンは1部に残留したものの、目標であった1部リーグ2勝を果たせなかった。4年目としての役割を果たせなかった自分の責任感の無さを痛感している。

思えば4年間、週6日の練習に合宿、数々の試合と、本当に長い時間ラグビーに携わった。同期メンバーや先輩後輩だけでなく、OBの方々や学連その他多くの人と巡り会ってきた。自分はラグビーは下手だが、こんなに多くの人と関わることができ、本当にラグビーをやって良かったと思っている。

同期のみんな、特に今期はキャプテンには多大な迷惑をかけたと思う。しかし、9人と少ない人数ではあったが、この同期で本当に良かった。ありがとう。

後輩の皆には、お手本になれるような先輩じゃなくて、本当に申し訳ない。次のシーズンでは一部上位校も狙えるチームだと思うので、期待して応援してます。

最後に、携わった先輩やOB その他ラグビー関係者の方々、迷惑ばかりかける自分を時には厳しく指導し、そして温かい目で見守って頂き、本当に感謝しています。ありがとうございました。

「残留」 岩井 勝喜

不甲斐ない先輩でしたが最後に残留出来て良かったです。まがりなりにも四年間部活動を続けられたのは頼もしい後輩に恵まれたからでした。ありがとうございました。

「4年間を振り返って」 久保田玄八

この4年間を振り返ってみると、私の大学生活はラグビー部の活動がいつも中心にあった様に思えます。大学入学以前はラグビーに全く興味が無かったですし、軽い気持ちで入部した面もあるので、少し不思議な気分さえします。

それでも4年間を楽しく過ごすことが出来たのは、部の先輩方や後輩、同期の部員達のおかげであると強く思います。

特に後輩にはいろいろと迷惑をかけた分、頑張ってもらいたいです。来シーズンは今シーズン以上の成績を残してくれることをOBになる者として期待します。

「一部残留」 中川正哉

今年1年間は自分にとって目標であった一部残留を果たせて最高の年になったと思います。この目標を果たせた、一番の要因は後輩たちにあると思います。本当にありがとう。

来年もまた厳しい戦いになると思いますが、チーム一丸となって頑張ってください、応援しています。

4年間お世話になりました。

「感謝」 三上 慧悟

4年間で振り返ってみると、本当に商大ラグビー部に入ってよかったと感じます。

ラグビー部に入っていなかったらこんなに充実した濃い大学生活は送れなかったし、そこで出会えた同期、先輩、後輩といった仲間達は自分にとって一生の財産になると確信しています。

多くの人と言う事ですが、「ラグビー」というよりも「商大ラグビー部」が本当に好きでした。だからこそ辛い時も頑張れました。

決していい先輩では無かったし、今年は悔いの残るシーズンでしたが、今後はOBとして後輩達現役を支えていきたいと思っています。

それが僕にとっての商大ラグビー部への恩返しです。

4年間ありがとうございました！

「四年間」 菅原 香織

今年はずいぶん最高学年になりました。

ここまで続けてくることができたのは、先輩にも後輩にも、そして同期にも恵まれていたからだと思います。

マネージャーリーダーとして反省するべき点もありますが、無事に引退を迎えることができ、本当に良かったと思っています。

後輩たちには悔いの残らないよう、最後まで頑張ってもらいたいです。

今まで本当にありがとうございました。

「ありがとう！」 野原 郁美

この四年間を思い返すと、あっという間のようで、とても濃くて長い四年間だったように感じます。嬉しいことも、悲しいこともたくさんあったけど、今となってはどれも大切な思い出です。そして、引退を迎えた今、改めてラグビー部でこの四年間を過ごしてこれたことを嬉しく思います。

お世話になった OB、OG のみなさん、かわいい後輩達、そして最高の同期達に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

## ○四年目のことば○

「目標」 小澤 祐介

時の流れは早いもので、ついに最高学年になってしまいました。

今は懐かしき一年生の時に自分を導いてくれた当時の主将のような背中を後輩に見せられるように、最後の一年を悔いなく過ごせるように、精一杯頑張っていきたいと思います。

3年間分の想い、努力を結果に繋げてみせます。

「主将として」 笠田 健太郎

掴みかけた勝利

胸を突く後悔

こぼれ落ちた悲しみの雫

昨年度を一言で表すと『不安』です。

インカレでは毎試合惜しい試合が続きました。目標を達成することができず、後悔ばかりが残ります。

そこには信じてやってきたことを最後まで信じてできなかったことが最大の敗因であると考えます。

というのは、納得をしきれていないラグビーをシーズン中やっていた。だから最後まで信じる事ができませんでした。

それではどんなに練習を重ね、鍛練したところで確固たるチームなどできないと思います。

ラグビーは『15人の野蛮な紳士のスポーツである。』と昔から言われております。

つまりただ走ってれば、ただ体を鍛えればできる。そんなスポーツではありません。それはただの野蛮人です。

強い肉体と頭脳を活用し、そのために鍛練を重ねて初めてできるスポーツであると考えます。

しかし、今の自分たちは足りないものだらけです。まだまだこれからやるべきことがたくさんあります。

誰が反対しても、誰も歩いたことがなくても、道とは自分の後ろについてきた人間が作るものがあります。私はそういう主将になりたいです。

グラウンドにおいてきた忘れ物を取りに行きます。

「今年度の反省と来年度の抱負」 佐々木 俊輔

まず初めに、応援して下さったOB方々、その他皆様、本当にありがとうございました。そして4年生の皆様、3年間ありがとうございました。同期を除けば一番長く一緒にプレーをしてきて、とても多くの思い出を作ることができることができました。皆様が抜けた穴を埋めることはたやすいことではありませんが、後輩一同最大の努力をしていく次第です。

今年度は3年目となり、また幹部として迎えた1年でしたが、自分のプレーの精度の低さからチームに対して迷惑をかけっぱなしの一年間でした。チームとしての成績は例年よりは幾分ましなものでしたが、振り返るだけで気が滅入ってくるような試合ばかりにしてしまった自分の不甲斐なさを反省するばかりです。それに負い目を感じ、他のプレーヤーの良くないプレーに対しての注意等もできなかったところも後悔が残ります。

来年度は副将として最後の一年間を迎えます。自分のプレーの精度をしっかりと上げて、更に後輩たちにしっかりと背中を見せていくことができればと思います。そしてチームとして掲げた目標を果たせるように最大限の努力をしていきたいと思います。

「最後の1年」 廣野 孝輔

今年は一部残留はしましたが、「一部2勝」という目標には惜しくも届きませんでした。自分も手術などもありチームに全く貢献できず、悔しい思いをしました。

来年はもう最後の年です。3年間あまり試合に出れず先輩や後輩、同期の期待に応えられなかった分、この一年はしっかりチームに貢献し、北大を倒し、自分の4年間の集大成にしたいと思います。

「最後の年の抱負」 永田 悠

昨年はインカレで一部残留することができ、嬉しい締めくくりとなりましたが、自分としては3



年生としてまだまだ余裕を持って行動できていなかったし4年生に頼っていた面が多かったように感じました。

今年はまた一部でさらに上を目指す選手の力になれるように最高学年として精一杯頑張っサポートしていきたいと思います!!

## ○三年目のことば○

「反省と抱負」 芦原 太郎

反省 パスミスが多くチームの力になれなかった。

抱負 チームの力に少しでもなれるように頑張っていきたい。

「体力作り」 小嶋 洋史

今年度は去年とは違い、何度も攻撃に参加することができた。しかし、目標に掲げていた体力作りをやりこんだつもりだったが、40分ハーフを全力で走りきれなかったのが、来年度は今年以上のランメニューをこなし、最後まで全力でプレーできる体力をつける。

「来年に向けて」 滝本 有祐

今年度は2年生となり、後輩もできたのだが先輩方々に引っ張ってもらっており、先輩方々に頼りきっていた。しかし来年度は3年生になるので、後輩を引っ張って行けるような先輩になっていきたい。

そして1部で少しでも良い結果で来シーズンを終われるよう精一杯頑張りたい。

「反省と抱負」 松川 卓馬

今年度の反省

1部の強豪校相手に何とか食らいつくことは出来たが、結局は勝てずにベスト5止まり。悔しい試合の多いシーズンだった。

来年度の抱負

自分達も3年生になりチームの主力となったので、しっかり皆を引っ張れるようなプレーが出来る選手になりたい。

「反省と目標」 前川 裕樹

今年の反省

『今年は試合をこなしていくにつれて、精神的な面での弱さがでてしまい、与えられた仕事を十分にこなすことができなかった。』

#### 来年の目標

『来年はチームの中で自分は何ができるか、何をすべきなのかを明確にし、15人の1人としての責任や自覚をしっかりと持つ。そして常にチャレンジャー精神を忘れずにやって行きたい。』

「今年の反省と来年の抱負」 村田 悠佑

今年の反省は「ウィングとの連携プレーがイマイチだったこと」。来年の豊富は「一部でも通じるセンターになること」

「反省と目標」 吉田 和希

#### 今年の反省

『今年は試合をこなしていくにつれて、精神的な面での弱さがでてしまい、与えられた仕事を十分にこなすことができなかった。』

#### 来年の目標

『来年はチームの中で自分は何ができるか、何をすべきなのかを明確にし、15人の1人としての責任や自覚をしっかりと持つ。そして常にチャレンジャー精神を忘れずにやって行きたい。』

「目標」 澤田 成美

今年度は二年生になり、後輩ができたので、後輩に色々なことを教える立場になりました。なので、いまいちどマネージャーとしての仕事を再確認するいい機会となった気がします。来年度は四年生マネージャーが一人になってしまうということで、焦りの気持ちがいっぱいですが、しっかりとみんなで支え合いながら頑張ろうと思います。

「来年に向けて」 中原 美咲

今年度は初めて後輩ができ、昨年とは違って責任感を持ちながらマネージャー業に取り組みました。同時に、自分に足りないものを先輩方からたくさん学んだ一年でもありました。来年度は選手にも後輩にも頼られるようなマネージャーをめざし、より一層、部に貢献していきたいとおもいます。

「抱負」 横内 美里

今年度は2年目になり、初めて後輩が出来た年でもありました。春合宿では自分のマネージャーとしての未熟さを思い知り、商大ラグビー部マネージャーとしてどうしていけばいいのか考えた時期もありました。しかし、今となってはその苦しんだ時期も大切だったのだらうと思います。来年度は3年目になり、重要な仕事を任せられる事も多くなると思います。商大ラグビー部生活も半分を切り、いちばん中心となる学年です。そこで、後輩たちをちゃんと引っ張っていけるように今まで以上に頑張っていこうと思います。

## 〇二年目のことば〇

「反省と抱負」 小田島 敬太

〈反省〉去年は周りの状況が見えていなく、一人よがりなプレーに走っていたと思う、来年はまずそこを直していきたい。

〈抱負〉チームプレー精神を常に意識し、一つでも多くのトライの足掛かりになりたい。

「反省」 小野寺 将一

『今年は何者ばかりしていたので、来期は何者することなく先輩になるという自覚を持って頑張りたいと思います。』

「来年に向けて」 久保田 友樹

昨シーズンは試合出場の機会が少なく、ベンチから見てただけの日々がとにかく悔しかった。但し、外から見て分かることも多くあったので、それを活かして、来シーズンはCTBとして主体性と責任感のあるプレーをする。同時に、如何なる場面でもチーム全体を鼓舞できる精神の鍛錬にも徹したい。

「来年の目標」 斎藤 大樹

去年は試合にほとんど出れず経験を積むことが出来なかったので今年は少しでも多く試合に出れるようにしたいです。その為には先輩を追い越さなきゃならないので頑張りたいと思います。

「反省と抱負」 田向 竜士

今シーズンはたくさん試合に出させてもらって、強い相手と勝負していく中で気持ちの面で自分のプラスになったことは多いと思います。

高校までの部活動では経験しなかった嬉しさや悔しさが今年一年に詰まっていて、とても濃い時間に感じました。

逆にフィジカルや技術面で足りない所が自分の中で浮き彫りになり、意識を変えることでなんとかしようとは考えてみても、それが改善されたと自分で実感できなかったところに関しては後悔しています。

来年は学年もあがり、今より少しチームの中心に近づいて練習、試合をしていくことになると思うので、チーム目標の打倒北大と合わせて自分の中の技術、フィジカル面の強化を常に意識しながら練習していきたいと思います。

「反省と抱負」 上田 美里

今年度は、初めて経験することが沢山あって充実していたなあ！と思っています。来年度は後輩

が出来るので、今の先輩方のような頼れるマネージャーになれるよう努力し、楽しく過ごしたいです！

「抱負」 杉下 ちなみ

今年は全てが新しいことだらけで、仕事も何をしていたかわからない状態でした。でもインカレでは去年に引き続き1部に残ることが出来て本当にうれしかったです。来年はもっと上位にいけるように、精一杯選手をサポートしていきたいです。

「改善点」 鈴木 郁美

今年は初めてのことばかりで先輩の足を引っ張ってしまうことが多かったように思います。テーピングを始めとして、水を配るタイミングやタイムカウントの要領など、どれをとっても納得のいく仕事が出来なくて悔しかったです。しかし優しい先輩と同期のお陰で楽しく部活ができました。来年は今年の経験を忘れずに生かせるよう、また、後輩に教えられるように頑張ります！

「反省と抱負」 豊 千慧

今年は一年生ということで、出来なくても許されたり、甘えたりする事が多かったと思います。先輩たちには迷惑をかけたか本当にお世話になりっぱなしでした。来年からは選手が安心して試合等に臨めるように、しっかりサポートしていきたいと思います。

## ○一年目のことば○

安楽 樹

合宿が終わってようやく商大ラグビー部の一員になれた気がします。今年はプレーの質をあげ一年生らしくはつらつと一つでも多くチームに貢献出来るプレーをしたいと思います。

石田 亘

ラグビー部はONとOFFの切り替えがしっかりしていて、互いに声をかけあって厳しい練習をする反面、合宿所ではどの先輩も優しく、合宿を楽しく過ごすことができました。ラグビー部には初心者から始める人が多く、自分もそのひとりですがこれからたくさん練習して早くラグビーを上手になりたい気持ちでいっぱいです。

大野 滉介

みんなから頼られるプレイヤーになりたいです

篠原 帆久斗

0からのスタートなので、1つ1つ全力で頑張ります！

西島 将太

とにかく何事にも全力で頑張ります。

西 竜之介

新入生らしくひたむきに頑張ります！

山本 真大

合宿一日目で膝が爆発したことで確実にラグビーは無茶だったと思いましたが、みなさんと楽しく共同生活を送れて、本当に入部してよかったと思いました！

体がいつちゃんと動くようになるかはわかりませんが、いつかは部活の戦力になれるよう頑張りますので、これからもよろしくお願いします。

佐藤 晴日

春合宿は毎日教わることややることがたくさんあってとても充実していました。

色々覚えたことを生かし、徐々に自分のできることを増やして行って、皆の役にたつマネージャーになりたいです。

中村 明日加

ルールやテーピングなどの仕事をしっかり覚えて、選手を支えられるようになりたいです。

合宿での反省を普段の練習に生かしていきたいとおもいます。

野村 季代

今回の春合宿ではきつい練習に真剣に取り組む選手の姿や、毎日の反省点を活かして向上させようとするマネージャーの姿を見て多くのことを学びました。

ラグビーのルールやマネージャーのお仕事を早く覚えられるように一生懸命がんばりたいと思います。

畑中 まみな

マネージャーの仕事を習得し、ラグビーのルールを中覚えて、少しでもはやく「できるマネージャー」になりたいです。これからもよろしくお願いします。